

きらめき☆奈良

発行：平成27年12月
奈良市教育委員会

第10号

子どもたちには夢があります。未来があります。可能性があります。
私たちの大切な宝である子どもたちが、自らの力で輝き、地域や社会、未来を照らす光となるように、奈良市ではさまざまな教育を行っています。
奈良市教育だより『きらめき☆奈良』では、奈良市の教育を紹介します。



特集…学びを変える。学びが変わる。
2・3面 ICTを活用したアクティブ・ラーニング

4面 ☆新教育委員さんの紹介
★12月2日は「なら教育の日」



ニジロー
奈良市教育センター
イメージキャラクター

奈良市教育委員に新しく就任した

畑中 康宣 さん



思いやりの心を持つ人に

学校や家庭、そして地域での学習や多くの経験を通じ、さまざまな力を身に付けていく子どもたちは、成長とともに少しずつ視野も広くなります。思いやりの心は、感動や感謝の気持ちを持てる体験を数多くすることで、育まれていくと思います。

自分の良さや、相手の良さを認め合うことで、一人一人の持つ個性、その子だけが持っている可能性が広がり、それが生きるための力となれば、素晴らしいことだと思います。その環境づくりのため、学校や地域での活動を通して、多くの方との出会いを大切にしながら、皆様の思いを教育施策に反映できるよう務めてまいります。
奈良で学び育ち、思いやりの心を持つ子どもたちを応援していきたいと思えます。



教育についてみんなで話そうよ！ 12月2日は「なら教育の日」

Q1 なら教育の日ってなに？

21世紀の未来を担う子どもたちを育てていくために、市民一人一人が奈良市の教育を考える機会となるよう、平成14年12月2日に「なら教育の日」「なら教育週間」「奈良市教育憲章」を制定しました。

Q2 なぜ12月2日なの？

平成14年12月2日に「古都奈良の文化財」がユネスコの世界遺産に登録されました。歴史や文化そして伝統を受け継がれ、さらに新しい文化を創造するには、教育の力が大切です。そのため、この日を「なら教育の日」とし、それに続く1週間を「なら教育週間」としています。

Q3 奈良市教育憲章ってなに？

私たちは奈良の教育を考え、家庭・学校・地域が連携して未来に羽ばたく子どもたちを育てていかなければなりません。
奈良市は、教育憲章を制定し、「教育のまち-奈良」をめざしています。

奈良市教育憲章

奈良は、国際文化観光都市、世界遺産のあるまちです。
平城京の昔から、悠久の歴史を経て、今に受け継がれてきた多くの文化財や伝統に大きな誇りをもち、大切に守り、未来に引き継ぐ責任があります。
歴史や文化そして伝統が正しく受け継がれ、さらに新しい文化を創造するには、教育の力が重要です。
私たち奈良市民は奈良の教育を考え、未来に羽ばたく子どもたちの心身の健全な発達を支えなければなりません。
そのためには家庭・学校・地域の連携が何よりも大切です。
奈良市は、ここに教育憲章を制定して「教育のまち-奈良」をめざします。

家庭は、教育の原点です。

親は、人生最大の教師です。
私たちは、家庭を大切に、子どもに対して責任をもちます。

学校は、学びの場です。

子どもたちは、はつらつと学びます。
教職員は、保護者や地域に信頼される学校をつくります。

地域は、かけ橋です。

地域は、家庭と学校をつなぎます。
私たち奈良市民は、子どもたちを見守ります。

平成14年12月2日制定

奈良市教育委員会

なら教育の日記念集会

テーマ『子どもたちが語る奈良の過去から未来』

日時 平成27年12月26日(土)
9:30～11:30(受付9:00～)

申込不要
参加無料

会場 なら100年会館 中ホール(定員350人)

9:30～9:45 記念式典
9:45～11:30 園児による発表
小学生・中学生・高校生のプレゼンテーション
高校生の政策発表



司会 岩本 計介さん
朝日放送アナウンサー
「おはよう朝日です」メインキャスター
問い合わせ：(教育総務課 0742-34-5297)

子どもたちが熱い思いを語ります。
奈良の子どもたちの素晴らしさを感じてもらえるはず・・・
私と一緒に
奈良の未来を発信しましょう。
ぜひ会場にお越しください。

きらめき☆奈良については、奈良市教育だより 検索 記事に対するご意見や感想等がございましたら、下記までお知らせください。



おはよう おかえり こんにちは
声かけ 気かけ 笑顔かけ
守ろう、地域の子どもたち
毎月17日は「子ども安全の日」です。

奈良市教育委員会事務局 教育政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号

Tel.0742-34-5386 Fax.0742-34-4597



学びを変えろ。学びが変わる。

ICT（情報通信）を活用したアクティブ・ラーニング

タブレットを活用

新しい授業のかたち

「砂糖を入れた時、ビーカーの中で何が起きているのかを絵で表現し、送ってください。」興東館柳生中学校の理科の「水溶液」の授業。生徒たちは目の前のビーカーを観察しながら、タブレットで絵を描き、ファイルを先生に送信します。送信が完了した絵は、瞬時に大型モニターに表示されます。砂糖を「赤い丸」で、水の分子を「青い三角」等で、いろいろな表現を用いて描かれています。生徒たちは、自分の描いた絵と似ているところ、違うところを見つけながら、クラスで全員の絵を共有し、意見を出し合います。

都跡小学校の算数科「比例の考え方」の授業では、表・グラフ・式などを用いて自分の考え方をみんなに説明できるようにノートにまとめます。

先生がモデルとしたい児童の

ノートを撮影します。そのデータを大型モニターで示し全員で共有するとともに、個人のタブレットにも保存します。児童たちは自分のタブレットを開きながら、ノートに書いた自分の考え方とどこが違うのかをじっくり見比べて考えます（左写真）。

このように、子どもたちと先生、子ども同士が多様な考え方や情報の共有をリアルタイムで行うことができます。



ームで行うことができます。

また、保管したデータをいつでも取り出すことができ、思いついた時点ですぐに操作ができます。これがタブレットを使用したアクティブ・ラーニング（※）のメリットの一つです。

都跡小学校の先生は「タブレットは、教科書やノートに取って代わるものではありません。今までの授業の中の隙間を埋め、より効率的に学習するためのツールです。どのように使うか、有効な使い方はないかを常に考えて授業に臨んでいます。」と新しい授業のかたちづくりに取り組んでいます。

興東館柳生中学校の校長は、「放課後の職員室では、タブレットを使いながら、よりわかりやすい授業づくりについて先生同士が話し合う機会が増えています。タブレットと

『スーパー・スマート・スクール』（SSSS）



スマートフォンを

授業で活用！

10月24日（土）に一条高校で奈良市政策アドバイザーの藤原和博さん（東京都杉並区立和田中学校の元民間人校長）によるスマホを使ったアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が行われました（右写真）。

テーマは、「ハンバーガー店の店長になってみよう！」。地図から読み取れる情報から、どこに出店すれば良いかグループで話し合います。「大



個人のスマホで情報収集をしながら、グループで話し合いをする生徒たち

はず。」「工場や企業があるから、ランチ利用者をターゲットに。」「高速の入口があるから車で人が流れてくる。」等、1〜3年生の生徒44名が10グループに別れ、10店舗のそれぞれ違った候補場所のプレゼンテーションを行いました。続いて、ハンバーガー店の1日の売上額を推測します。グループでの話し合いの中では、スマホを使って情報収集を行います。また、授業の感想をスマホで送信するとスクリーンで共有でき、違った考

え方をリアルタイムで確認することで生徒同士の刺激になります。このように、生徒の気持ち熱いうちにやりとりをするというのが、スマホ活用の一例です。授業を受けた生徒からは「いつもの聞いていただけの授業と違い、自分から積極的に参加することが多かった。」「今日の授業を受けて、これからは収集した情報を、もっと速く分析し、発信する力をつけていきたい。」と今後の目標も聞かれました。

産学官連携による

一条高校の教育改革

平成28年4月から、リクルートマーケティングパートナーズと奈良教育大学との産学官連携事業を一条高校で行います。

連携事業では、スマホ等の情報端末を利用したアクティブ・ラーニングと併せ、生徒自身が動画コンテンツ（ビデオ教材）を視聴し、復習や苦手分野克服のため、「個別の内容を」「自分のペースで」「繰り返し」学習をします。確かな学力を身に付けるため、家庭学習を習慣化し充実させるきっかけとすることがねらわれています。

また、奈良教育大学は、生徒への効果を検証し、今後の研究にも役立てます。

このように、産学官が連携し、一条高校は、教員でしかできない部分は教員が担い、従来の「ICTを活用する学校（スマートスクール）」を越える「スーパー・スマート・スクール（SSSS）」をめざします。

教育長の見る聞く語る



9月1日、新聞各紙に一条高校における産学官連携事業（スーパー・スマート・スクール）の記事が掲載されました。この取組の背景には、国が進める2020年から始まる大学入試制度改革があります。現在の知識偏重の入試から、思考力や判断力、表現力を問う試験を行う検討が始められており、これらに向けて高校の授業も、従来の講義型から活発に意見を交わすような能動的な授業へ変えていく必要があります。

一条高校は、奈良市唯一の市立高等学校です。生徒たちが卒業した10年後20年後、28歳や38歳になったとき、変わりゆく社会の中でどのような中心的役割を果たす人

材になっているかを考えなければなりません。

これからの時代、正解のない先の見えない社会を生き抜くため、異なる文化、異なる考え方の相手とも話し合いができるコミュニケーション力、筋道を立てて説明ができるプレゼンテーション力を小学校、中学校から育て、高校でも継続して鍛えていかなければならないと考えています。そのために、小学校、中学校で取り組んでいるICTを用いるなどしたアクティブ・ラーニングを高校まで広げ、一貫性のある継続した新しい学びの仕組みづくりを進めていきます。



興東館柳生中学校の理科の授業の様子

※アクティブ・ラーニング

教員が一方的に教える授業スタイルではなく、児童生徒が課題をもち、自分の考えを様々な方法で表現し合うことを通して学ぶ授業の進め方。

1台のタブレットを導入し、10月から持ち帰り学習を開始しています。家庭で、学習ソフト等も活用し、授業の予習復習を行っています。

今後も、効果的なタブレット活用の手法や、学習方法の検討、学力向上の効果検証を行い、モデル校での取組を子どもたちの新しい学びのために活かしていきます。

1人1台を活用 持ち帰り学習開始！

平成27年度から、モデル校として、3小学校（都跡・辰市・帯解）の4〜6年生と興東館柳生中学校の全学年で1人に